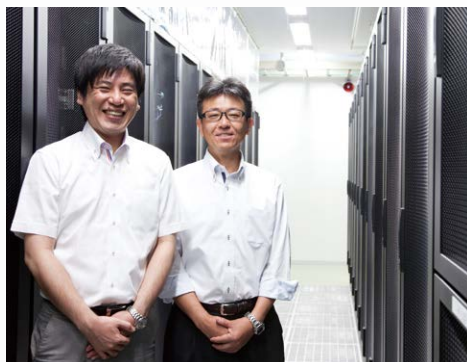


Case Study

EMC Cisco 導入事例

ネットワーク・ストレージ / 仮想化



クラウドサービス基盤にEMC® VSPEX®を採用 EMC VNX® Cisco UCS/Nexusをフル活用し 高性能かつスケーラブルなインフラを実現

導入前までの経緯

導入後期待される効果



設立：1977年3月18日
資本金：12億2148万円
URL：http://www.tokai-com.co.jp/
業種：情報／サービス
事業概要：TOKAIグループの情報通信企業として、
個人／法人向けの多彩なサービスを展開。

- ・大量のトランザクション処理に対応できる高性能クラウドサービス基盤を構築すること。
- ・将来的なサービスの成長にも即応できる高い拡張性と運用管理のシンプル化を実現すること。

- ・EMC VNXのFAST機能を利用し、高IOPSの確保とストレージリソースの有効活用を実現。
- ・拡張性と運用管理性に優れた環境をCisco UCS/Nexusで実現。サービス提供期間を約2/3に短縮。



株式会社TOKAIコミュニケーションズ
西日本エリア事業部
岡山データセンター
センター長
安池 宏年 氏



株式会社TOKAIコミュニケーションズ
西日本エリア事業部
営業部 大阪支店
支店長
増田 統生 氏



株式会社TOKAIコミュニケーションズ
西日本エリア事業部
営業部 営業支援課
課長
渡邊 直秀 氏



株式会社TOKAIコミュニケーションズ
西日本エリア事業部
営業部 大阪支店
西村 太 氏

今後のビジネスの成長を担う 新データセンターを岡山に開設

TOKAIグループの情報通信事業を担う企業として、各種法人向けサービスやソリューションを展開するTOKAIコミュニケーションズ。その同社のビジネスに、また一つ強力な武器が加わった。2013年4月よりサービスを開始した新データセンター「おかやまクラウドセンター」である。

同センター長を務める安池 宏年氏は「岡山エリアは自然災害のリスクが非常に低い上に、電力供給の安定性が高く、交通アクセスが便利など、データセンターに最適な条件を数多く備えています。当センターではこの恵まれた立地に加えて、堅牢なファシリティと高信頼な自社ネットワーク網をご用意。お客様の多様なニーズにしっかりとお応えしています」と語る。

また、同社の増田 統生氏も「開設当初は、東海地方のお客様のバックアップ/DR用途で活用されるケースが多かったのですが、最近では岡山エリアへの注目が高まっていることもあり、メインセンターとしてのニーズも増えています。当社ではAWS接続をはじめとする多彩なサービスもご提供していますので、今後も積極的に当センターのメリットをアピールしていきたい」と語る。

クラウドサービスのインフラを 「VSPEX」で構築

「クラウドセンター」の名称が示す通り、新センターは同社のクラウドサービス事業のインフラとしても活用されている。その一つが、2014年10月にスタートしたサービス、「Pracla (プラクラ) Hosted Private Cloud Enterprise」だ。元々このサービスは、同社の第2データセンターで提供されていた「Hi

Spec Storage Cloudサービス」が母体となっている。2009年のサービス提供開始以来、大手小売業とメーカー間での売上／在庫情報開示サイトや購買情報開示サイト、基幹業務システムなどに広く利用されてきた。

「従来は大手企業のお客様を中心にソリューション提供を行ってきましたが、今後はより多くのお客様に拡販していきたいと考えています。そこで新たなインフラをおかやまクラウドセンター内に構築し、サービスの強化・拡充に役立てることになりました」と増田氏は語る。

もっともこのサービス、実は性能要件が非常に厳しいという特性を備えている。同社の渡邊 直秀氏は、その理由を「たとえば食品であれば、JANコードが枯渇しているために、ある程度期間が経つと同じコードが別の商品に振られてしまう。また、商品分類についても、あるケースでは飲料、別のケース

では日配品と、同じ商品が異なるカテゴリに分類される場合もあります。当然このままの状態では分析／販促業務に使えませんので、膨大な過去データの更新を日次でこなさなくてはならないのです」と説明する。

しかも性能要件の厳しさに加えて、もう一つ大きな課題があった。従来は比較的顧客層が限られていたこともあり、個々の案件ごとに個別に環境を構築していた。しかし、今後顧客数が増えてくれば、よりスピードの速さが求められることになる。

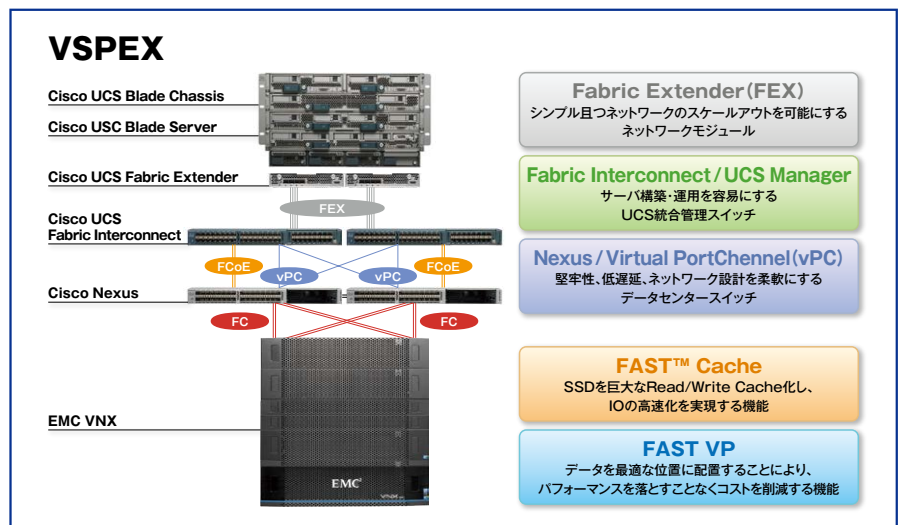
大量高速処理が可能な高性能・高信頼システム環境を、できるだけ短期間で実現する。この困難な課題を解消するソリューションとして選ばれたのが、ネットワークが提供する「EMC VSPEX」(以下、VSPEX)であった。

大量データの高速処理と柔軟な運用管理を実現

VSPEXは、ストレージベンダ大手のEMCが提供する実証済みリファレンス・アーキテクチャーであり、パートナー企業が提供するサーバ、ネットワーク機器、ハイパーバイザなどと組み合わせ、高信頼なインフラを短期間で構築できる。今回はストレージに「EMC VNX5400」を採用。IAサーバには「Cisco Unified Computing System (UCS)」が、スイッチには「Cisco Nexus」がそれぞれ採用されている。

「近年ではこうした検証済みのインフラソリューションも増えていますが、今回は旧システムでもEMCストレージの評価が高かったこと、製品組合せの自由度が高いことなどを評価してVSPEXを採用しました」と渡邊氏は語る。

特に大規模DBの高速処理に威力を発揮しているのが、EMC VNXの「FAST Cache」機能だ。これはストレージに搭載された大容量フラッシュデバイスをキャッシュとして利用することで、処理の高速化を図るといったもの。「以前別のシステムで検証したところ非常に大きな効果を挙げられたので、今回も迷わずFAST Cacheを採用しました」と渡邊氏。これ



と同時に、アクセス頻度に応じてデータを最適なディスク装置に再配置する「FAST VP」機能も採用されている。

また、Cisco UCS/Nexusの様々な特長も、柔軟なサービス基盤の実現に大きく貢献している。Cisco UCSには、サーバ/ネットワークの統合管理を可能にするコンポーネント「Cisco Fabric Interconnect」が用意されており、シンプルで拡張性に優れた環境を実現することができる。同社の西村 太氏は「Cisco UCS専用の運用管理ツール『UCS Manager』による一元管理が行える上に、予備機への切り替えや新たなサーバの展開なども事前に設定したサービスプロファイルを適用するだけ。クラウドサービスではとかく環境が複雑化しがちなので、運用管理が容易なのはありがたいですね」と語る。また、Cisco Nexusについても、耐障害性や性能の向上に寄与する「Virtual PortChannel (vPC)」や、柔軟な拡張性を実現する「Cisco UCS Fabric Extender」などの機能を活かすことで、シンプルかつスケーラブルネットワーク環境を実現している。

サービス提供期間を従来の2/3に短縮

今回のVSPEX導入により、同社のクラウド事業の発展にも大きな弾みが付くこととなった。渡邊氏は「従来は約45日掛かっていたサービス提供期間を、今後は30日程度にまで短縮できると見込んでいます。このメリットを

フルに活かし、お客様の多様なご要望にスピーディーにお応えしていきたい」と力強く語る。

ネットワークのサービス・サポートに対しても、高い評価と期待が寄せられている。「ネットワークでは自社推奨ソリューションに対しての研究を深く行っており、独自の検証結果なども提供してもらえます。おかげで我々としても、お客様へのソリューション提供を安心して行えます。今後も同様の支援をお願いしたいですね」と西村氏は語る。

「新たなクラウド基盤が完成したことで、全てのデータセンターサービスを一气通貫でご提供できるようになりました。この強みを活かして、今後もおかやまクラウドセンターをさらに発展させていきたい」と抱負を語る安池氏。その取り組みをネットワークもしっかりと支えていく。

お問い合わせ

株式会社ネットワーク

<http://www.networkworld.co.jp/>

✉ emc-info@networkworld.co.jp

本社	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-11-15 住友商事神保町ビル TEL : 03-5210-5020,5031,5095
関西支店	〒530-0001 大阪市北区梅田3-3-20 明治安田生命大阪梅田ビル 24F TEL : 06-7664-5400
中部支店	〒451-6008 名古屋西区牛島町6-1 名古屋ルーセントタワー 8F TEL : 052-588-7611
九州支店	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-6-1 九勤筑紫通ビル 3F TEL : 092-461-7815

*記載されている会社名および製品名、ロゴは各社の商標または登録商標です。
2014年9月